

学科別三つの方針

人間心理学科	経営学科	英語コミュニケーション学科	教育福祉学科	看護学科
<p>I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 人間心理学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と心理学に関する専門知識・技能を修得し、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与します。</p> <p>(1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる。</p> <p>(2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会や他者のために主体的・積極的に行動し、貢献することができる。</p> <p>(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 心と行動の多様性と可塑性を理解し、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、社会や世界の一員として考え、行動できる。</p> <p>(4) 問題発見・解決力 状況に応じて、情報ツールを活用して情報収集や情報分析ができ、心理学的測定法と心理アセスメント、心理学実験の知識を有し、質問紙や実験的手法等を用いて調査し、客観的なデータに基づいて、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりすることができる。</p> <p>(5) コミュニケーション能力 人間に共通する心的作用や行動パターンから心と行動の普遍性を理解したうえで、対人コミュニケーション能力に優れ、様々な人々と協働して問題解決にあたることができる。</p> <p>(6) 専門的知識・技能の活用力 心理学に関して、心を生み出す仕組み（機構）と心理学の諸理論の基本的理解と、客観的なデータ分析結果を実証的に活用することができる。</p> <p>II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー） 本学科では卒業認定・学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた</p>	<p>I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 経営学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と営利・非営利の継続的事業体（以下組織や集団と呼ぶ）のマネジメントに関する専門知識・技能を修得し、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与します。</p> <p>(1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 自分自身の目標をもち、その実現のために、自分の行動に責任をもって、意欲的に行動することができる。</p> <p>(2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、組織や集団の目標を理解して、他者のために能動的に行動し、貢献することができる。</p> <p>(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界や社会には多様な人々が存在し、様々な文化や価値観が存在することを客観的に理解し、それらの違いを尊重しながら、行動することができる。</p> <p>(4) 問題発見・解決力 マネジメントの現場において、情報収集や情報分析を行い、問題を発見することができ、解決へのアイデアを構想し提案することができる。</p> <p>(5) コミュニケーション能力 資料や他者からの情報を収集することができ、自分の思いや考えを的確に表現・発信し、他者と意見を交わし調整することができる。</p> <p>(6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団がどのような論理で、どのような意思決定を行い、どのような結果になったのかを理解し、説明することができ、組織や集団のマネジメントについての専門的知識と技能を修得し、実際の場面で、その時・その場の状況に応じて、再構成し活用することができる。</p> <p>II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー） 本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適</p>	<p>I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 英語教育学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と専門知識・技術を修得し、次のような能力・資質を備えそれらの力を状況に応じ総合的に活用することができる人物に学位を授与します。</p> <p>(1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる。</p> <p>(2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる。</p> <p>(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界の多様な人々や社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界の一員として考え、行動できる。</p> <p>(4) 問題発見・解決力 状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。</p> <p>(5) 日本語のコミュニケーション能力 国内外を問わず、社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。</p> <p>(6) 英語のコミュニケーション能力 英語を用いて、日常生活や仕事に必要なコミュニケーションをとることができる。資料を理解し、必要な情報を読み取ることができ、英語での討論や意見交換ができる(CEFR-B2 レベル程度)* *ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages） 語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格</p> <p>II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー） 本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容・教育方法・教育評価の方針に基づき、カ</p>	<p>I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 教育福祉学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と専門知識・技術を修得し、専門職として活躍できうる実践力を身につけた教育・福祉人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。</p> <p>(1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に主体的・自律的に取り組むことができる。</p> <p>(2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として地域社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。</p> <p>(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 教員・社会福祉従事者として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。</p> <p>(4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。</p> <p>(5) コミュニケーション能力 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑なコミュニケーション力を獲得し、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。</p> <p>(6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を活用して、状況に応じ総合的に活用することができる。</p> <p>II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー） 本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評</p>	<p>I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 看護学科（以下、「本学科」という）では、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養を基礎とする知識および看護学の専門知識・技術・態度を修得し、国際社会において看護専門職として活躍できる人材を育成するために、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材に学位を授与します。</p> <p>(1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 看護職者として課題を見出し、克服するために、主体的に課題に取り組むことができる。</p> <p>(2) 社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 地域・国際的動向をふまえ、保健医療の課題における看護の必要性と看護職者の役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。</p> <p>(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 人間についての幅広い専門知識を用いて、対象者が持つ背景や価値観の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができる。</p> <p>(4) 問題発見・解決力 看護問題・課題の解決に向けて、必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な看護方法を選択・計画し、安全かつ確に行動することができる。</p> <p>(5) コミュニケーション能力 対象者と円滑なコミュニケーションをとることができ、他職種との連携・協働を行うことができる。</p> <p>(6) 専門的知識・技能の活用力 看護職者として必要とされる看護学の専門的知識・技術・態度を修得し、状況に応じて総合的に活用することができる。</p> <p>II. 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー） 本学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などの目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体</p>

人間心理学科	経営学科	英語コミュニケーション学科	教育福祉学科	看護学科
<p>授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1) 人間学総合教育科目では、幅広い教養や様々な立場におけるものの見方の獲得を目的とし、必修科目「人間学」を中心に、人間の生活についての現状と課題について、基本的な視点と考え方を知り、自らが考える経験を図ります。また、「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。</p> <p>(2) コモンベシックス科目群では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得を図ります。</p> <p>(3) 語学教育においては英語教育において習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テストを用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。</p> <p>(4) 心を生み出す機構や心と行動の多様性と可塑性を理解し、これに対応する心理学の諸理論を知り、さらに人間に共通する心的作用や行動パターンを通じて心と行動の普遍性を理解するため、1年次から4年次まで講義科目、演習科目、学外での体験学修科目を段階的かつ重層的に配当します。</p> <p>(5) 心理学の専門教育科目を学修するにあたり、2年次より臨床心理学コース、犯罪心理学コース、スポーツ心理学コース、キャリア心理学コースの4コースに沿って、体系的・順序性を踏まえた科目を配当します。</p> <p>(6) 実験・測定・調査の方法論を実際の現象に適用して客観的にデータ分析することを学ぶため、学生自らこれらの方法論の演習や統計学等による分析の学びを通じてデータを客観的にとらえ心理学を社会で活用するために実践的に学修します。</p> <p>(7) 1年次もしくは2年次前半には地域における奉仕体験活動を通して地域の問題を理解し解決を探るサービスマネジメントに参加し、2年次には異文化と</p>	<p>切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1) 人間学総合教育科目では、幅広い教養や様々な立場におけるものの見方の獲得を目的とし、必修科目「人間学」を中心に、人間の生活についての現状と課題について、基本的な視点と考え方を知り、自らが考える経験を図ります。また、「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。</p> <p>(2) コモンベシックス科目群では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得を図ります。</p> <p>(3) 語学教育においては、英語教育において習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テストを用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。</p> <p>(4) 組織や集団の構造と機能の特性を理解し、実際の組織や集団のマネジメントに必要な知識・技能を修得するため、基礎から基幹、展開と発展的な科目の区分を行い、1年次から4年次まで講義科目、演習科目、学外での体験学修科目を段階的かつ重層的に配当します。</p> <p>(5) 経営学の専門教育科目を学修するにあたり、2年次よりツーリズムマネジメントコース、ホテル・ブライダルコース、地域マネジメントコース、セーフティマネジメントコースの4コースに沿って、体系的・順序性を踏まえた科目を配当します。</p> <p>(6) 1年次から3年次にかけて組織や集団での就労を経験するインターンシップに参加します。さらに1年次もしくは2年次前半には地域における奉仕体験活動を通して地域の問題を理解し解決を探るサービスマネジメントに参加し、2年次には異文化との接触・交流を通して学ぶグローバルスタディに参加します。グローバルスタディへの参加の前にリサーチ入門を必修科目として履修します。</p>	<p>リキュラム編成と授業の実施を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1) 4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。</p> <p>(2) コモンベシックス科目群では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得をはかります。</p> <p>(3) 英語に関する専門教育科目については、1年次から4年次にかけて。1年次には、とくに英語力を養う基礎科目を中心に、2年次からは英語を活用したコミュニケーション能力を育成するために、4技能(聞く・読む・書く・話す)を組合せた内容を学修します。</p> <p>(4) 2年次以降は、英語を活用してコミュニケーションを展開する国際社会や文化や経済に関する基幹科目、進路の方向性(教育、観光等のビジネス)に合わせた展開科目を履修します。</p> <p>(5) 社会の課題を自己のものとしてとらえ、考え、発信するための国外や地域における体験学習(グローバルスタディ、サービスマネジメント、インターンシップ)を2つ以上履修します。</p> <p>(6) (5)のうち、1年次には地域に根ざした活動(コミュニティスタディ)に参加し、1年次もしくは2年次に、海外プログラム(グローバルスタディ)を履修します。英語を主に用いる職業を目指す学生は、3年次終了までに、2回以上の海外渡航プログラム(グローバルスタディ)の参加を求められます。その履修にあたりアジアを含む ACP プログラム等への参加、および6ヶ月以上の交換留学を奨励します。</p> <p>(7) 学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになること</p>	<p>価を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1) 4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。</p> <p>(2) コモンベシックス科目群では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得をはかります。</p> <p>(3) 既修外国語である英語教育においては、習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語を活用したコミュニケーション能力の育成をはかります。</p> <p>(4) 教育や社会福祉等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけてコースや分野別に体系的・順序性を考えて配置します。</p> <p>(5) 入学時に、こども学専攻教育・保育コース、こども学専攻教育専修コース、福祉学専攻の専攻・コースに分けて教育課程を設定します。こども学専攻教育・保育コースは、保育や初等教育、特別支援教育、福祉学専攻は社会福祉等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて体系的・順序性を考えて配置します。</p> <p>(6) すべての学生は国外における体験活動として、2年次もしくは3年次に海外プログラム(グローバルスタディ)の履修を行い、その参加に先立ち、「リサーチ入門」を必修科目として1年次後半に履修します。</p> <p>(7) すべての学生に、1年次において、地域における体験活動としてサービスマネジメント、またはインターンシップの履修を選択必修とし、積極的に地域へ</p>	<p>系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。</p> <p>1 教育内容</p> <p>(1) 4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に社会、文化、自然3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えます。</p> <p>(2) コモンベシックス科目群では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得をはかります。</p> <p>(3) 既修外国語教育である英語教育においては、習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テストを用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語を活用したコミュニケーション能力の育成をはかります。</p> <p>(4) 看護学の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて分野別に体系的・順序性を考えて配置します。1年次には、医学、社会学、心理学などにより人を心身の両面から理解し、さらに基礎看護学の講義、演習、実習を通して看護の基礎的知識、技術を修得する。2年次には、領域別の看護学の講義、演習を配置し、3年次には領域別実習において、大学で学修した知識(専門知)と現場で得た知識(経験知)の繋がりを理解し、実践できるようにします。</p> <p>(5) 4年次の卒業研究および統合看護実習を必修とし、専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。</p> <p>(6) 看護師課程の国家試験受験資格の取得に必要な科目を1年次から体系的・系統的に配置しており、助産師課程および保健師課程については3年次に履修登録された者がそれぞれの国家試験受験資格の取得に必要な科目の履修を3年次、4年次におこないます。</p> <p>(7) 必修である3年次以降の在宅看護学実習を通じ、地域における看護ニーズを学びます。</p>

人間心理学科	経営学科	英語コミュニケーション学科	教育福祉学科	看護学科
<p>の接触・交流を通して学ぶグローバルスタディに参加し、3年次には企業を中心に社会での就労を経験するインターンシップに参加します。グローバルスタディへの参加の前にリサーチ入門を必修科目として履修します。</p> <p>(8) 学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(9) 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。</p> <p>(10) 心理学の専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連携性をはかり、学生の学習が特定時期だけに偏らないように、計画的な学修がしやすい環境をつくります。また、形成的評価のための期中のフィードバックに努めます。</p> <p>(11) 卒業までに修得すべき汎用的能力を測る KUIS 学修ベンチマークの達成度について、各学期末に学生が自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通して振り返りと改善を行います。</p> <p>(12) 目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」(リフレクション)を行います。</p>	<p>(7) 学修内容の総合化をめざす問題解決学習科目として、1年次から3年次まで「プロジェクトマネジメント演習Ⅰ～Ⅳ」を毎年履修し、人材・資金・設備・物資・スケジュールなどをバランスよく調整し、全体の進捗状況をマネジメントするという経営の実務に沿った学修を発展的に繰り返し、経営学等で学んだ専門知識を活用した問題発見・問題解決の方法の修得を図ります。</p> <p>(8) 学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(9) 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。</p> <p>(10) 経営学の専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連携性をはかり、学生の学習が特定時期だけに偏らないように、計画的な学修がしやすい環境をつくります。また、形成的評価のための期中のフィードバックに努めます。</p> <p>(11) 卒業までに修得すべき汎用的能力を測る KUIS 学修ベンチマークの達成度について、各学期末に学生が自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通して振り返りと改善を行います。</p> <p>(12) 目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」(リフレクション)を行います。</p>	<p>が求められます。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(8) 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。</p> <p>(9) 専門教育科目においては、教室外学修の課題について教育効果を上げるために教員間の連携をはかり、形成的評価のために学期中のフィードバックに努めます。</p> <p>(10) 4年間を通じ、英語力の定期的な外部テストの受験と、KUIS ポータルを用いた語学自己学習の結果を用い、英語運用能力の継続的なモニタリングを行い、習熟度に応じた「ふりかえり」と改善を図ります。</p> <p>(11) 英語専門教育科目においては、毎学期外部テスト等の客観的指標をもとにレベル別にクラスの編成を行い、自分のレベルに応じた科目を履修します。これらの科目では、英語による授業を受けます</p> <p>(12) 各学期末に KUIS 学修ベンチマークの達成度について、学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を行います。</p> <p>(13) 目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオの作成が奨励されます。</p>	<p>貢献する学外活動に参加します。</p> <p>(8) 入学時の専攻・コースで取得可能な資格・免許が取得できるよう、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・特別支援学校教諭免許取得・社会福祉士国家試験受験資格等の取得に必要な科目を、1年次から体系的・系統的に配置します。</p> <p>(9) 教育や福祉の現場で求められている実践的能力の育成のために、特別支援教育関連科目と初等教育での英語教育科目(初等英語教育研究、発音指導等)の履修を奨励します。</p> <p>(10) 学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。</p> <p>2 教育方法</p> <p>(11) 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。</p> <p>(12) 専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連続性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。</p> <p>(13) 教員や保育士、社会福祉士等の免許や国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの受験及び e ラーニングによる自己学習の推進や結果の継続的なモニタリングを行います。また、学科教員による採用試験・国家試験対策のための時間を開設し、1年次から段階を追ったプログラムを実施します。</p> <p>(14) 目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオという目標・記録・評価ツールを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。</p> <p>(15) 各学期末に KUIS 学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を行います。</p>	<p>2 教育方法</p> <p>(8) 主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門科目で実施します。</p> <p>(9) 専門科目においては、アサインメントやレポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。</p> <p>(10) 国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの導入及び e ラーニングによる自己学習の推進や結果のモニタリングを行います。また、学科教員による模擬試験・国家試験対策のための時間を開設し、1年次から段階を追ったプログラムを実施します。</p> <p>(11) 目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行い、自らの経験と身につけたものを情報発信できる方法を身につけます。</p> <p>(12) 臨地実習は、問題解決学習方法(PBL)を用いて、学修を行う。指導教員および臨地指導者からその現場における助言を受けながら学修を深める。また、小グループでのグループ学修により他者の意見も聞き、考えを広げる。さらに学修を発展的に繰り返し、看護学で学んだ専門知識を活用した問題発見・問題解決の方法の修得をはかります。</p> <p>(13) 学期末に KUIS 学修ベンチマークや専門科目の達成度について、学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を行います。</p>

人間心理学科	経営学科	英語コミュニケーション学科	教育福祉学科	看護学科
<p>3 教育評価</p> <p>(13) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。</p> <p>(14) 4年間学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。</p> <p>Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー） 本学科は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。 (3) 社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 (4) 安全・安心な社会を作りたいことを望み、そのために心理学を学んで活用したいという意欲がある。 (5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動などの経験があり、他の人たちと協力しながら課題をやり遂げることができる。 (6) 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。</p>	<p>3 教育評価</p> <p>(13) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。</p> <p>(14) 4年間学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。</p> <p>Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー） 本学科は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。 (3) 社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 (4) 経営学について興味があり、マネジメントについての知識や経験を社会で活かしたいという意欲がある。 (5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動などの経験があり、他の人たちと協力しながら課題をやり遂げることができる。 (6) 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。</p>	<p>3 教育評価</p> <p>(14) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。</p> <p>(15) 4年間の学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。</p> <p>Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー） 本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 教員等の語学教育や海外の人々に関わる仕事に就く意欲がある。 (3) 基本的な英語力及び日本語運用力と表現力を身に付けている、具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことを書いたり話したり、ある程度まとまった英文を読み理解できるなど、日本英語検定準 2 級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。日本語は、漢字検定 3 級程度を背景とした文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (4) 社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 (5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら課題をやり遂げることができる。 (6) 入学前教育として求められる e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。</p>	<p>3 教育評価</p> <p>(16) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。</p> <p>(17) 4年間の学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。</p> <p>Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー） 本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 教育、保育、社会福祉領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。 (3) 教育や社会福祉の専門的な知識・技能を学修するための基盤となる日本語運用力（文章読解力、漢字検定 3 級以上程度）や表現力（課題に応じた内容をまとめる力、文章を読んでまとめる力他）を身につけている。 (4) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。 (5) 教育や社会福祉に関する諸課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 (6) 学校でのグループ学習や課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協働して活動や学習をすることに進んで参加したり、課題をやり遂げたりすることができる。 (7) 入学前教育として求められる e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。</p>	<p>3 教育評価</p> <p>(14) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格のものには再試験を課し、それに合格することを求めます。</p> <p>(15) 各学年・学期には専門科目を配置しており、各段階別実習にはそれまでの専門科目の単位取得がないと履修できないという履修要件を設けています。 (16) 4年間の学修成果は、統合看護実習および卒業研究によって評価ルーブリック・到達目標の到達度で総括的評価をおこないます。</p> <p>Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッションポリシー） 本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。</p> <p>(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 看護職者が社会の果たす使命や役割について理解し、看護職の仕事を通じ社会に対し貢献しようという熱意と意欲を持っている (3) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。 (4) 高等学校までの履修内容のうち、看護学の基礎として「理科（生物基礎または化学基礎）」を身につけている。 (5) 社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 (6) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動などの経験があり、他の人たちと協力しながら課題をやり遂げることができる。 (7) 入学前教育として求められる e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。</p>